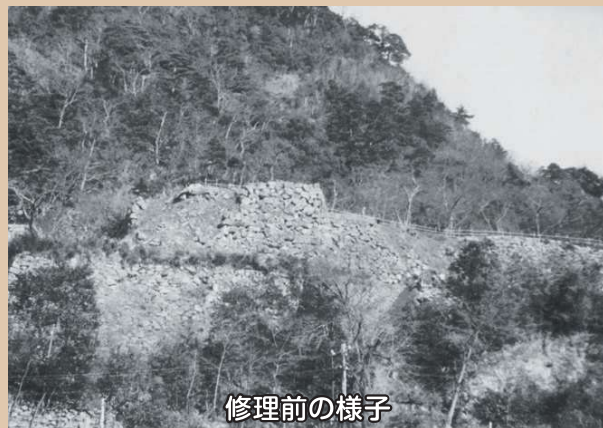


二ノ丸・三階櫓周辺石垣 No.①

二ノ丸三階櫓周辺の石垣は、元和7年(1621)頃までに池田光政によって創建されと考えられ、享保13年(1728)に修理されたものです。

鳥取城跡において文化財石垣として初めての修理が行われ、当時は破損の著しい角石の大部分が取り替えられ、安定した構造体として修理されました。一方、当時他城郭では、ほぼ残されなかった工事写真が国内最多規模で残されており、全工程が江戸時代の工法そのもので、人力によって修理されていたことがわかります。



修理前の様子



「かぐらさん」による解体



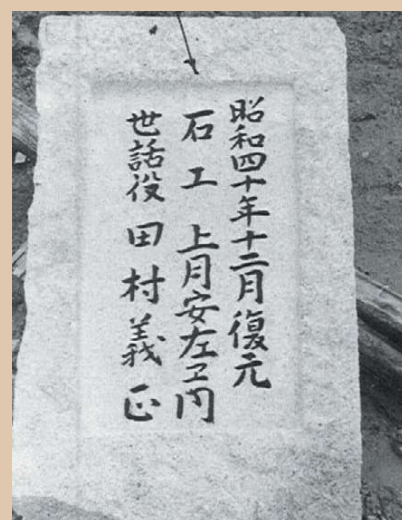
「石吊り」による運搬



角石の加工



角石の設置



石工棟梁は上月保左工門(現・鳥取県八頭町船岡)が務め、三階櫓入口階段左側天端角石裏に銘が刻まれています。

二ノ丸・走櫓周辺石垣 No.⑨

二ノ丸走櫓周辺は、元和7年(1621)頃までに池田光政によって創建されたと考えられます。昭和40年代以降、人力から重機による修理に変化していきますが、解体する石垣を写真測量によって記録保存する試みが日本で初めて実施されるなど、文化財的調査を重視する取り組みが始まりました。また、現在の二ノ丸は、もともと高さ3.2m程度の石垣の前面に犬走りを設けて、高さ約10mの石垣を築き足したことが判明しました(写真①)。さらに、石垣面に見られる角部は、調査によって外面に直交する石垣が続かないことが判明し、創建時の作業工程上の区画を示すものと想定されています(写真②)。なお、三ノ丸側の犬走りを構成する石垣石からは石垣内部側で刻印が見つかりました。創建時、石材を現地調達した鳥取城では石材に刻印が施されること自体が珍しいことから、修理時には、刻印面を外側に向けて積み直されています(写真③)。



写真①



写真②



写真③